



ケアタウン小平 ボランティア講座

私たちはケアタウン小平(小平市御幸町)で活動している NPO 法人です。

ホスピスケアの理念を掲げ、地域のために楽しく生きがいを持って活動してみたいと思われる方は、ボランティア講座に是非ご参加下さい。(無料・受講のみも可)

デイサービスでは、月曜から土曜日に活動して下さる方などを求めています。

また、スタッフと一緒に入浴介助補助をして下さる方、おやつを作って下さる方も募集します。
ご不明な点は下記問合せ先へお気軽にどうぞ。

【日時】 平成30年 2月25日(日) 13:00～16:30 (受付12:30～)

【内容】 ①ケアタウン小平の理念について ②傾聴、行動と感情の関係について
③ボランティアからのメッセージ

【参加条件】 小平市かその近隣在住の方・毎週1回活動できる方(曜日・時間固定)
☆募集を行う曜日・時間等については、講座にて説明いたします。

【参加までの流れ】 講座受講→ 後日面談→ 参加(4月中旬以降より)

【お問合せ】 TEL 042-321-5985

FAX 042-321-5982 (住所・氏名・電話番号を要記載)

上記までTELもしくは郵送かFAXしてください。

【締め切り】 2月 19 日(月)

【主催・会場】 〒187-0012 小平市御幸町131-5 ケアタウン小平1階
NPO 法人コミュニティケアリンク東京 事務局

《NPO法人コミュニティケアリンク東京の紹介》

理事長 山崎 章郎 (ケアタウン小平クリニック院長) 著書「病院で死ぬということ」他

事業内容 デイサービス事業、訪問看護事業、居宅介護支援事業、子育て支援事業
地域のボランティア育成事業など

「ケアタウン小平 NPO」で検索

現在約90名のボランティアさんが男女問わず活躍中。デイサービスや食堂などで、交流・趣味活動、お話し相手、庭はき、腐葉土づくり、デイサービスご利用者の送迎の添乗やお風呂介助など。ボランティアミーティングを通じて、資質向上にも積極的に取り組んでいます。





「地域を応援し、地域に応援されるケアタウン小平」を目指して

ケアタウン小平は、開設から13年目のちょっと変わった所です。終末期ケアの最前線「ホスピス」で働いていた人たちが、「地域にホスピスケアを届けよう」を合言葉に立ちあげました。3階建ての建物には「いつぶく荘」というアパートがあります。また今回のボランティア講座を主催するNPO法人が運営する訪問看護、デイサービス、ケアマネジメントがあります。その他に、在宅専門の診療所や食事サービス事業所などがテナントに入っています。そして、ここには中庭まであり、放課後は子どもたちがサッカーをしにくるのです。

「ホスピスケアを通じて、地域を応援し、地域に応援されるケアタウン小平」が私たちの目標です。

「人はだれでもボランティアが好き」

そんなこんなで地域の方々とお付き合いを始めて10年。いまでは毎年、近所の小学校の4年生全員が授業でケアタウン小平デイサービスに来てくれます。利用者の方々に「楽しい、驚いた、なつかしい、初めて知った」を届けるために歌やリコーダー演奏、校内や給食の写真レポート、マジック、寸劇つき紙芝居というようなステキな発表があります。利用者の方々は優しいまなざしと拍手、人によっては指笛で返礼します。児童の感想文では、成功や失敗の話とともに、感謝の気持ちが数多く書かれています。その後も放課後に何人かで訪ねてくれるのは、「ボランティアは楽しい」、と感じてくれたからなのでしょう。

当NPO法人では、地域の登録ボランティアが活躍しています。週一回、曜日・時間固定でチームの一員としての参加です。40代～80代で構成され60代が過半数です。

ボランティアを希望される方の理由は様々です。地域の状況を肌身で感じた方や、人生を振り返り感謝の思いや心残りから希望する方もいます。これからの道を考え参加される方、自身の技を届け

たい方、亡くされた家族の存在を感じながら活動される方もいます。私たちのボランティア活動をテーマにした研究に協力した際、その結果の中で、活動を始めた当初よりもボランティア継続の動機として、「地域に広める」という考えの強まった方が多いことが分かりました。活動を通して地域のために働き、思いがつながり、さらに地域の力となっていく。先述の子どもたちやボランティアさんとの協働から学ぶことは、「人はだれでもがボランティアが好き」なのだと思います。

「ホスピスケアには、ボランティアが必須」

私たちは、ガンという病気の方だけではなく、普遍性を持ったホスピスケアの理念を携え、スタッフとボランティアがそれぞれの責任と個性を分かち合い活動をしています。ボランティアとの協働は、社会の変化や世代を越えてホスピスケアに必要とされるものです。人が、その人らしく生きるためには、医療や介護があればいいわけではないからです。

キッチンに立って料理や洗い物の生活音を奏でるボランティアの姿、淡々と庭を掃くその姿、何気ない日常会話が、自分ではそれを失ってしまったと思うような状況にある方にとっての日常を育み、時にそのことが専門家では成しえないケアの力を持ちうるのです。

しかし、私たちの活動も社会の内側で行われる以上、社会の変化に影響を受けます。ボランティア自体が減る時代も考えられます。影響を最小化する方法はないものか、今、試行錯誤中です。

有効な策の1つとして、ボランティアという意思を地域の文化にすることだと私たちは考えます。そして、「人はだれでもボランティアが好き」なのだとするならば、このチャレンジに価値と可能性はあるように考えます。

人類初の超少子高齢社会は目の前です。よりよいケアを自分の地域に育み、未来につなげるためのチャレンジは、まさに今が本番です。ケアタウン小平で、そのチャレンジに参加してみませんか。

NPO法人コミュニティケアリンク東京
事務局 中川稔進